

メッセージ

宗教者九条の和「第5回シンポジウムと平和巡礼 in 広島」が開催されるに当たり、メッセージをお送りいたします。

ヒロシマは、64年前の被爆体験を原点に、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を訴え続けてきました。しかし、今なお地球上には膨大な量の核兵器が備蓄・配備されており、人類は、「全ての国が核兵器を持つ」のか、「核兵器のない世界」を創るのか、という選択を迫られています。

こうした中、本市は、全世界からの加盟都市が3,000を超える平和市長会議やこれら加盟都市の市民、世界のNGO等と連携して、2020年までの核兵器廃絶を目指した取組を進めています。

今年4月、米国のオバマ大統領はプラハで行った演説で、「核兵器を使った唯一の国として」、核兵器廃絶のために努力する「道義的責任」があることを明言し、「核兵器は廃絶されることにのみ意味がある」と主張する世界の大多数の意見の正しいことを裏書してくれました。

今こそ私たち世界の市民が、核兵器廃絶に向けすべての力を結集すべき時です。本市では、核兵器廃絶を求める世界の多数派である私たち自身を「オバマジョリティー」と呼ぶことを提唱しました。核兵器廃絶という大目標を実現するためには、オバマ大統領に期待するだけでなく、私たち自身が、オバマ大統領以上の努力をしなければならないという決意を表明するためです。

この「オバマジョリティー」を合言葉に、世界の市民が力を合せ、2020年までの核兵器廃絶の具体的道筋を示す「ヒロシマ・ナガサキ議定書」の来年のNPT再検討会議での採択に向けた国際世論を更に大きくしたいと考えています。

対人地雷の禁止、グラミン銀行による貧困からの解放、温暖化の防止等、大多数の世界市民の意思を尊重し市民の力で問題を解決する地球規模の民主主義が今、正に発芽しつつあります。その芽を伸ばし、核兵器廃絶というさらに大きな問題を解決するためにも、平和を願う宗教者九条の和「第5回シンポジウムと平和巡礼 in 広島」が開催されますことは誠に意義深く、その取組に対し深く敬意を表します。

私たちには力があります。私たちには責任があります。そして、私たちは「オバマジョリティー」です。力を合せば核兵器廃絶はできます。絶対にできます。

皆様には、今後とも、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現のため、私たちと共に力を尽くし、行動して下さいを心から期待いたします。

終わりに、宗教者九条の和「第5回シンポジウムと平和巡礼 in 広島」の御成功と御参加の皆様の今後ますますの御健勝と御多幸をお祈りいたします。

平成21年(2009年)9月26日

広島市長 秋葉忠利